

発行日

令和6年
9月1日

No.12

アルナだより

発行： 柿生アルナ園 広報委員会
川崎市麻生区上麻生 5-19-10
TEL. 044-987-0021

理事長挨拶

日頃より特別養護老人ホーム柿生アルナ園の活動にご理解援助をいただきまして心より感謝申し上げます。

当園も本年度で創設三八年目に入り、人であろうところの壮年期を迎えております。振り返ると、介護を取り巻く環境もこの間、複雑に変化してきました。中でも最大の出来事はやはり、二〇〇〇年に「介護保険制度」が施行され、従来の措置施設から契約施設へと変貌し、介護報酬による事業運営が開始されたことだと思います。

介護の本質に関しては「制度」導入後も変わりがなく、創設以来、介護現場においては日々「身体介護」（食事・排泄・入浴などの介護業務）や、「生活支援介助」（日常的な居室整備、病院受診、買い物、レクリエーションなどの支援業務）に、誠意をもって取り組んできております。さらに大切な事として、より良いケアを目指し、「入居者との心のつながりを大切にしたい」「感情労働」（エンパシー「共感力」）を活かした利用者の目線に立った業務）にも努めております。

しかしながら一方で、日本の生産年齢人口が一九九五年を境に減少に転じ、入居者を支えるための介護士、看護師等の人材が不足する状態が続いていることは周知の事実となっています。前述のとおり、介護は人と人との信頼関係の上に成り立っていますので、人手不足解消の手段として産業界で試みられている「自動化や機械化の導入促進で対応しきれぬものではありませんが、そのための解決策の一つとして、特定技能者をはじめとした海外からの労働者の受け入れがあり、今後この傾向は強まり「介護の国際化」が促進されることと思われれます。

当園におきましても、目標とするパーソン・センタード・ケアの充実には人材の確保養成が不可欠であり、近い将来多くの外国籍のワーカーが日本人の介護職とともにご利用者の介護、並びにご家族の対応をすることになると思います。その際には、日本の高齢社会を支える大切な人財として共に育てて頂きますよう、ご理解・ご協力を心よりお願い申し上げます。

「夫濟大事必以人為本」

副施設長挨拶



4月よりアルナ園へ異動となり副施設長に就任しました落川 晃央（おちかわ あきお）です。簡単に自己紹介させていただきます。鈴保福祉会に入職したのが今から二十数年前のこと。川崎市多摩区に新規開設となった特別養護老人ホームしゅくがわらのオーブニングスタッフ（介護職）として働きはじめました。福祉の世界に入る前は、豚骨ラーメン店の店長として長年勤めていましたが、突然の豚アレルギーに・・・豚骨ラーメン屋としては致命的アレルギーで（嘘のような本当の話です）やむなく退職し福祉の世界へと進みました。専門学校にて介護福祉士資格を取得後、介護現場へ。たくさんのお会い、お別れと貴重な経験を積ませていただきました。また共に働く上司や同僚にも恵まれ、仲間と共に『施設づくり』にチャレンジしてきたことは私の誇りでもあり、大切な時間でした。

アルナ園では副施設長という大役を仰せつかりましたので、私の考える『施設づくり』についても少し触れさせていただきます。私のモットーは簡単です。『誰からも選んでもらえる施設づくり』これにつきまます。この【誰からも】という点がポイントです。入居を検討されている方、その家族はもちろんですが、仕事を探している方、地域の方々、現在アルナ園で働いてくれている皆さんから「アルナ園がいい」「アルナ園でよかった」「今までもこれからもアルナ園」といったように誰からも選んでもらえるアルナ園を創っていきたくと考えています。微力ながらも尽力いたしますので、皆様のお力添えのほどお願いいたします。

◆納涼祭

【七月二十七日 三階デイルームにて開催】

今年の納涼祭はここ柿生で活動をされている民謡ボランティアの方々による民謡演奏でスタートとなりました。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、ボランティアの皆様とマスクを着用したご利用者様の間にはアクリル板の仕切りを置く形で感染症対策をしながらの実施としました。職員は法被を羽織り、ご利用者と共に手拍子をし、一緒に楽しめる演奏会となりました。特に山形県の民謡【花笠音頭】は知名度も高いこともあり大変盛り上がりました。歌い手のお一人はご利用者の旦那様ということもあり、利用者、家族、ボランティア、職員と皆で作りに上げた素敵な納涼祭となりました。

ボランティアの皆様方には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。素晴らしい演奏をありがとうございました。



民謡ボランティア団体～真福寺民謡会～の皆様ありがとうございました



演目「筑波山唄」
力強い声が響きました



旦那様の歌声に照れながらも感謝の気持ちを伝えられました

ご利用者からの声

「民謡を聞いてとても楽しかったわ。知っている歌もあったし、近所の方が三味線を弾いていたの。ご近所さんも歌に参加していわ。綿菓子もグット！ ヨーヨーもあったらよかったけれど、すごく楽しめたわ！」（二階 女性利用者）

「民謡よかった！ 芸能人みたいに着物着ている人もいて素敵だった。やっぱりこういうの（ボランティア）が来るのはいいね。かき氷、珍しくてよかったし美味しかった。子供のころに戻った気がしたよ。でももつといっぱい食べたかったあ」（二階 女性利用者）

職員からの声

「皆さん喜んでいましたね。民謡を聞きに行った方で一緒に歌っていた方もいました。くじ引きの催しでは浴衣を着た職員の姿をみて大変喜んでくださる方もありました。」

「行事と言うことで昼食にうなぎが出ました。皆さん残さず食べられていました。普段なかなか食べられない方もこの日は完食できたという方多くいらっしゃいました。」



くじ引き「頼む一等出れ～」



今回の行事食は『うなぎ丼』



特養のイベント

◆運動会【四月十二日 一階談話室にて開催】

春の運動会は一階のご利用者が紅組・白組に二組に分かれ、団長を中心に各競技を一生懸命に取り組まれました。普段もの静かな方も、この日は活動的な表情を見せられるなど、ご利用者の皆様が程よい緊張感の中で大いに盛り上がりました。たのしい時間はあっという間に過ぎ、今回は“白組”の優勝という形で締めくくりとなりました。

次回は秋の運動会となり二階のご利用者を中心に実施となります。



白組優勝しました！



紅組も頑張りました！

◆音楽療法【月一回 三階ダイナミックルームにて開催】

音楽療法は講師の佐谷先生指導の下、八名のご利用者が参加されています。

この回は【トーンチャイム】という楽器を用いた療法で、音色がとても心地よく、音の重なり（和音）を皆さん感じておられました。

他にもタンバリンやハンドベル等を使うなど、様々な楽器を使用しています。



佐谷先生には歌のボランティアでもお世話になっています

◆昼食会【五月十九日 一階は談話室、二階は食堂にて開催】

今年の春の昼食会は【しゆくがわら】という同法人内の施設より4月から異動してきた職員による歌や踊りの出し物が披露されました。

「皆様に楽しんでいただくために試行錯誤し、皆さんが知っている曲を選んで『東京ブギウギ』にしました。また、踊りの際の衣装も、派手で目をひき、笑って貰えるよう男性職員は女装することにしました。ご利用者の皆さんと一緒に、踊って盛り上がったので、とても良かったです。アルナ園の皆様これからよろしくお願ひします。」 異動職員一同

出し物の後には昼食会のメインとなる豪華な『握り寿司』の登場。皆様、満面の笑みにて召し上がられました。



「女装がこんなにウケるとは思いませんでした」



提供する握り寿司は年2回なので大人気です！